

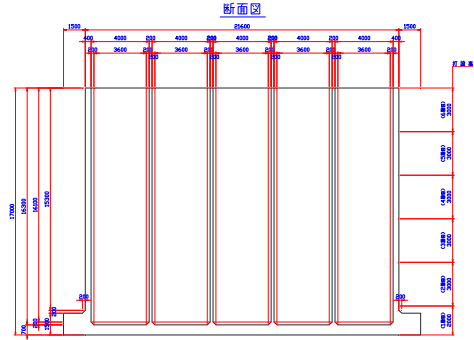
大船渡港外施工方策検討調査

1. 背景と目的

東日本大震災により被災した、我が国有数の大水深湾口防波堤の大船渡港湾防波堤(南堤291.0m北堤243.7m)及び釜石港湾防波堤(南堤670.0m北堤990.0m)の復興に向けての施工検討は、復興期間は5年間と限定、復興コストの抑制、被災ケーソン撤去に伴うコンクリート塊の発生等の課題を内在しており、施工検討はこれらの課題について解決する必要があった。



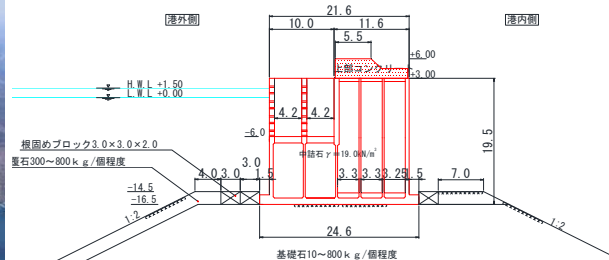
大船渡港被災後対象施設位置図



大船渡港復旧断面



釜石港被災後対象施設位置図



釜石港復旧断面

2. 技術的特徴

- ①被災した港内で、ケーソン・ブロック製作ヤードや作業船等の待機場所を確保する必要がある。
- ②大水深、被災したケーソンが復旧の障害になる可能性、養殖施設や漁業操業等が施工上現地で留意する必要がある。

3. 課題と解決方策

(1) 課題

- ①船舶航行や漁業操業に影響を与えないよう、施工計画を立案する必要がある。
- ②復旧に必要な石材量が需要量に対して供給できるのか把握する必要がある。
- ③被災ケーソンは、復旧の障害となりまた撤去には膨大な工費と工期を要する可能性があった。

(2) 解決方策

- ①復旧に際し、航路の切り回しを計画的に行い、船舶の航行を常に確保する検討を行った。
- ②東北地方で供給可能な石材産地を調査し、需要量と供給量のバランスを把握した。
- ③被災ケーソンの撤去水深は、航行船舶の必要水深を確保し、撤去数量を最低限にし工期短縮と工費削減する計画とした。

4. 成果

防波堤復旧作業において留意すべき事項を露呈し、全体計画を概観できる検討となった。

5. 成果の活用

大規模湾港防波堤復旧工事の計画検討の妥当性が整理され、発注業務を円滑に行うために活用される予定である。